

6月の銅マーケットレポート及び7月の見通し (3)

橋本アルミ (株) 橋本健一郎



■概況

【自動車】

4月の四輪車生産台数は77万7,670台で、前年同月比+3.8%となり2カ月連続増加。輸出は34万4875台で前年同月比+7.7%。

【販売】

6月の国内自動車販売台数(軽は除く)は29万2,761台で前年比-7.3%。2カ月ぶり減少。

内乗用車-7.9%、貨物-2.7%、バス-29.3%。

【住宅】

・平成30年5月の住宅着工戸数は79,539戸で、前年同月比で1.3%増となった。また、季節調整済年率換算値では99.6万戸(前月比0.4%増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で2カ月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は減、分譲住宅は増となった。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比+2.5%の6万8186t、3カ月ぶり増加。

内需は5万6523t、+2.4%、2カ月連続プラス。

輸出は1万1663t、+3%、5カ月ぶりプラス。

銅条は2万2016t、+3.3%、2カ月連続プラス。

黄銅棒は1万5779t、+0.8%、2カ月連続プラス。

【電線】

前年比+7.4%の5万5000t。

うち国内は+4.6%、輸出が+122.8%。

通信は+0.9%、電力-6.9%、電気機械+4.7%、自動車+8.4%、建設電販+7.2%、その他内需-2.4%。

【輸出】

電気銅輸出が+33%の5万2760t。銅スクラップは+31%の2万9655t。

【輸入】電気銅が-82.4%の600t。スクラップは+5.5%の11743t。

【見通し】

・自動車は生産が+3.8%。国内販売台数が前年比-7.3%。生産が2カ月連続プラス、販売が2カ月連続マイナス。販売が増加に転ずるかどうかが今後注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で+1.3%と増加で2カ月連続プラス。

増加傾向が続くのかどうか今後の動向に注目。

・伸銅品は、3カ月振り増加、前年比-0.6%。

需要の多い銅条2カ月連続プラス、黄銅棒は2カ月ぶりプラス、輸出5カ月ぶりプラス。

自動車生産が2カ月連続プラスと改善。連れて伸銅品生産も改善しており今後の動向に注視。

・電線は前年比+7.4%の5万5000t。

輸出が+122.8%。

需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ+8.4%、+7.2%。建設電販が2カ月連続プラスに!

・銅輸出は地金、スクラップとも内需低迷や円安から増加。

・銅輸入は大幅円安から地金は減少。代わりにスクラップは増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は前月半ばごろの建値84万から78万まで下落した過程で放出されておりほとんどでないのではないかと。

需要面に関しては足元の生産状況は足踏み状態にあるが比較的良好。

ここ数カ月メーカーが人手不足問題から地金を優先に使用していることから品費の低いスクラップに関しては購買意欲は薄く飽和状態になるのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は米中貿易戦争と鉱山ストの動向に左右される。米中貿易戦争に関しては米ハーレー社の工場海外移転検討などに代表されるように米製造業からも反発の声がでてきており両国間での歩み寄りが出てくるのではないかと。

鉱山ストに関しては、エスコンディダ鉱山の労使交渉に関しては7月中に解決される可能性があるが、時期的にその他のストが起こる可能性があるのではないかと。

これらを踏まえた7月の銅価格は、米中貿易戦争で両国間で歩み寄りが見られ、エスコンディダ鉱山で昨年同様労使交渉が決裂した場合7,200ドル付近。

両条件が揃わなかった場合現状から6,500ドル付近まで下落するとの予想。

為替は、上記材料から、ドル円値は109円~112円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては750~850円程度と予測している。

【「6月の銅マーケットレポート及び7月の見通し」終了】

弊誌収録サイトのアドレスが変わりました。

既刊号も順次収録してまいります。

<https://nikkankinzoku.co.jp/>

